

1. 社会福祉法人緑風会本部

現在リーマン・ショック後の欧州経済危機とその後の世界的規模の経済停滞が続き、日本は未だ東日本大震災及び原子力発電所事故からの再生の途上であり、国家的財政再建も急務とされる。日本の社会構造においては、「少子化」「超高齢社会」「人口減少社会」と日本の人口構成も大きく変化し続け、困難な状況が長く続くであろう難しい将来展望もあり、年金・福祉・医療・介護という社会保障全体の在り方が国家を左右する課題として重要視されている。福祉・医療・介護の担い手である公益法人（社会福祉法人）の在り方も世論の厳しい批判を受け大改革が進められ改正社会福祉法が成立した。

医療においては、第一次医療法改正から第五次医療法改正、後期高齢者医療制度、健康保険法改正及び診療報酬改定と、厚生労働省は医療提供体制の再編をしてきた。五疾病（がん、心筋梗塞、脳卒中、糖尿病、精神病）・五事業（救急医療、災害医療、僻地医療、小児医療、周産期医療）を軸に、医療機関を機能別に再編し、高度急性期医療から急性期、回復期リハ、慢性期医療を経て在宅医療まで切れ目なく且つ効率的に医療サービスが国民に提供されるように体制を整備しようとしている。そして、年金・福祉・医療・介護を全体として持続可能な制度とすべく、財政的枠組みづくりの再編と、効率的医療体制の構築と医療・介護・地域の一体的連携による「地域包括ケアシステム」の構築によって、医療費及び介護費の適正化を図りながら制度体系の整備を進めている。

緑風会は、厳しいこの経営環境の下において、緑風荘病院の建替え事業を無事完了し、今後は医療構造改革の進捗、病院界再編の状況、福祉・医療・介護政策の動向を分析し、今後も福祉・医療・介護の全般に対応しうる「地域の相談役」となりうるように研究・努力を続けている。

福祉事業たる緑風荘病院、介護老人保健施設グリーン・ボイス、緑風荘訪問介護ステーション、公益事業たる東村山市南部地域包括支援センター、緑風荘居宅介護支援事業所、いずれも経営環境は厳しく、建築期間中の病棟閉鎖による減収、仮設営業の為の建築費、建物の解体費用、入院機能再編、近隣介護施設等の開設ラッシュの影響が厳しい計数として表れていたが、緑風荘病院の改築完了をもって、医療・介護・在宅機能の総合された新しい緑風会として躍動し始めた。

平成 27 年度の予算以降は、(改正) 社会福祉法人会計に移行し、平成 28 年度以降は改正社会福祉法の平成 28 年度施行分に対応していく。

損益計算書

自平成27年4月1日

※千円未満四捨五入等

緑風会本部

至平成28年3月31日

単位：千円

勘定科目	平成26年度決算	平成26年度決算	差
経理区分間繰入金収入			
緑風荘病院	64,045	62,339	1,706
介護老人保健施設GV	15,701	15,779	△78
南部地域包括支援センター	821	830	△9
居宅介護支援事業所	823	877	△54
訪問介護ステーション	298	369	△71
小計	81,688	80,194	1,494
本部収益			
受取利息・配当金	65	128	△63
補助金等収益	0	0	0
建物収益	1,657	1,494	163
雑収益	1,718	591	1,127
寄付金収益	0	1,000	△1,000
その他臨時収益	0	544	△544
本部収益合計	3,440	3,757	△317
本部収益項目合計	85,128	83,951	1,177

勘定科目	平成26年度決算	平成26年度決算	差
本部費用			
人件費			
役員報酬	9,762	9,581	181
事務員給	43,545	41,854	1,691
労務員給	8,633	8,353	280
退職給付引当金繰入	2,592	1,983	609
法定福利費	6,968	6,741	227
人件費計	71,500	68,512	2,988
事業費	440	51	389
事務費	4,682	589	4,093
減価償却費	810	1	809
		4,151	△4,151
経費計	5,932	4,792	1,140
患者外給食材料費	0	659	
雑損失	0	375	△375
支払利息	18	41	△23
従事者共済会費	0	736	△736
奨学金	7,678	7,897	△219
創立記念事業費	0	251	△251
貸倒損失	0	0	0
固定資産除却損	0	0	0
その他臨時費用	0	688	
小計	7,696	10,647	△2,951
本部費用項目合計	85,128	83,951	1,177

本部当期純利益	0	0	0
緑風荘病院 損益	29,902		
グリーン・ボイス 損益	23,207		
地域包括支援センター 損益	1,879		
居宅介護支援事業所 損益	△4,289		
訪問介護ステーション 損益	△5,221		
法人全体 損益	45,478		

※千円未満四捨五入

2. 緑風荘病院平成27年度事業報告

1) 緑風荘病院の概要

診療科目：	内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、リウマチ科、 内科（人工透析）、小児科、 外科、消化器外科、皮膚科、泌尿器科、 整形外科、リハビリテーション科		
入院：	許可病床 199 床 内訳）	一般病床	51 床
		回復期リハ病棟	40 床
		医療療養病床（2 病棟）	108 床
外来：	患者延数 1 日平均約 329 名（平成 27 年度実績） 透析処置ベッド 33 床		

2) 緑風荘病院の経営環境

- ① 診療報酬改定 H18 年 4 月 マイナス 3.16% 改定
H18 年 10 月 居住費・食費の保険外化
入院基本料の再編（7 対 1 創設）と厳格化
看護配置基準・夜勤条件の厳格化
医療療養病床の医療必要度による再編
H26 年 4 月 地域包括ケア病棟入院基本料創設
H26 年 4 月 7 対 1 入院基本料の基準厳格化
H26 年 4 月 7 対 1、10 対 1 除外事項廃止 等
- ② 健康保険法関係改正（H14 年 10 月 老人 1 割負担）
（H15 年 4 月 健保本人 3 割負担）
（H20 年 4 月 後期高齢者医療制度施行）
- ③ 介護報酬改定（H17 年 10 月 居住費・食費の保険外化）
（H18 年 4 月 マイナス 2.4% 改定）
（介護療養型老人保健施設を新設）
- ④ 医療法関係 病床機能報告制度（機能分化の推進）
地域医療ビジョン

緑風荘病院は、地方的・中間的な一般病院でケア・ミックス医療（一般病床＋療養病床）として、小児科を含む一般診療から、老健、訪問介護ステーション、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所と連携した高齢者の医療・介護までできる医療機関として、地域での存在を確立してきた。

緑風荘病院の医療機能は、①高次救急病院の後方支援病院、②一次救急を担う病院、③小児科のある病院、④透析患者が入院できる病院、⑤在宅医療・介護を支援する病

院、⑥在宅復帰のためのリハビリテーション病院として、北多摩地域の急性期病院と在宅医療の連携の橋渡し役並びにその後の在宅医療・介護を支える医療機関としての役割を確立し、進行しつつある医療機能分化の中、地域住民に対して広範に福祉・医療・介護を同法人内の他施設と連携して医療サービスを提供してきた。

緑風荘病院は地域社会（東村山・小平・東大和）と共に成長し続けた。今後もこの地域の福祉・医療・介護全般に関し、なんでも相談できる親しみやすい医療機関として地域住民のために貢献していきたい。

3) 平成27年度：各部署での診療機能や組織の状況。

[医 局]：

内 科：常勤7名、非常勤医師も含めて診療内容は充実している。

外 科：常勤医1名で順天堂大学の協力もあり、手術件数、内視鏡検査、当直体制において好実績を上げている。

整形外科：常勤医1名で杏林大学の協力もあり、診療実績、手術件数において高実績を上げている。

透 析：常勤医師1名入職後7年目。月～土で2クール運営。

小 児 科：常勤1名の再小規模での運営。毎日曜日に無低事業として自主的に休日診療。

[看 護 部]：

平成18年4月診療報酬改定で誕生した7対1看護の配置基準や夜間勤務条件厳格化の影響で未だ激しい看護師獲得競争が繰り広げられており、当院も看護師不足の渦中にあり、中堅職員、夜勤担当者は充実させようと工夫している。

患者サービス・接遇向上は重要な課題であり、現在様々な方法による人材確保と院内研修による質の向上に取り組んでいる。

[薬 局]：

薬品の効率的購入および定額制病棟でのジェネリック薬品採用を推進している。薬剤師の採用状況は落ち着きをみせてきた。

[リハビリ]：

資格職を充実させ、施設基準をフル稼働しながら回復期リハビリテーションを順調に稼働させている。早期リハビリから在宅復帰までの流れを充実すべく理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の活気ある稼働を図ってきた。

[透 析]：

一週間通しで一日2クール治療を実施し、新建物A棟の使用開始後に透析ベットを33床とし、更に患者増も達成している。

[レントゲン]：

診療放射線技師常勤4名で運営している。画像診断電子化（PACS）の運営も安定し、救急時の検査体制も整った。

[検査]：

BMLによる外注で業務は安定しており、超音波検査について技師を他病院で研修し、消化器及び甲状腺の検査体制ができ充実している。救急時の検査体制も整った。

[事務部門]：

次期コンピューターの更新の為に年度を通して情報を収集している。DPCデータ提出加算を取得し、電子カルテ導入の情報収集をしている。更に接遇向上と診療録管理の充実に取り組んでいる。

[施設関係]：

建替工事も完了となり、新病院建物及び施設の機能維持のための保守や修繕が始まった。駐車場、駐輪場も整った。

病院建替え計画のために平成22年度に病院敷地1,690坪を売却し建替資金を確保、平成23年10月東京都医療施設耐震化緊急事業補助金の内示を受け、平成24年2月独立行政法人福祉・医療機構からの融資について受理通知を受け、緑風荘病院の建替え工事を開始し、平成26年11月をもって完了した。

(1) 建築中の外来診療の仮営業場所として平成23年8月より閉鎖後の建物（旧中央病棟）を改修工事し、リハビリテーションの仮営業場所として建物（旧医局・管理棟）を改修工事し、その他の各部署において仮設場所の改修工事をした。(2) 旧外来病棟（南病棟）解体を実施し、平成24年度下期においては「入院機能の再編」つまり回復期リハビリテーション病棟開始と介護療養の医療療養への転換を実施した。(3) 平成25年7月新建物A棟の使用開始。(4) 旧中央病棟を解体し、B棟の建設開始、平成26年11月をもってB棟建築工事及び外構工事を完成した。

損益計算書
緑風荘病院

自平成27年4月1日
至平成28年3月31日

※千円未満四捨五入
単位：千円

勘定科目	平成27年度決算		勘定科目	平成26年度決算
入院収入(介護・自費含)	1,888,729		入院収入(介護・自費含)	1,824,973
外来収入(介護・自費含)	944,867		外来収入(介護・自費含)	889,056
その他介護保険収益	1,381		その他介護保険収益	2,705
支払基金等査定減(控除)	△ 12,044		支払基金等査定減(控除)	△ 9,626
サービス活動収益合計	2,822,933		医業収入合計	2,707,108
人件費	1,748,107		医薬品費計	176,140
事業費	638,889		診療材料費計	48,646
薬品費	202,517		医療用消耗品費計	100,285
診療・療養等材料費	115,153		給食材料費計	48,407
水道光熱費	70,295		材料費計	373,478
委託費	118,023		人件費計	1,658,786
事務費	120,420		委託費計	120,639
事務消耗品費	12,012		設備関係費計	207,152
租税公課(消費税)	58,958		研究研修費計	3,436
利用者負担軽減	8,854		経費計	139,810
減価償却費	167,965		控除対象外消費税I	56,783
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 8,190			
徴収不能額	176		本部費配賦額	62,339
サービス活動費用合計	2,676,221		医業費用合計	2,622,423
サービス活動増減差額	146,712		医業利益	84,685

サービス活動外収益	10,157		医業外収益	17,999
サービス活動外費用	29,047		医業外費用	56,918
経常増減差額	127,822		経常利益	45,766
特別増減による収益	6,096		臨時利益	0
特別増減による費用	104,016		臨時損失	165,761
当期活動増減差額	29,902		当期損失	△ 119,995

	平成27年度決算			平成26年度決算
経常収益	2,833,090		経常収益	2,725,107
経常費用	2,705,268		経常費用	2,679,341
経常利益	127,822		経常利益	45,766
総収益	2,839,186		総収益	2,725,107
総費用	2,809,284		総費用	2,845,102
当期利益	29,902		当期損失	△ 119,995

収支関係は、社会福祉法人新会計基準に基づくものである。

経常収益	2, 8 3 3, 0 9 1千円
経常費用	2, 7 0 5, 2 6 8千円
経常利益	1 2 7, 8 2 2千円
総収益	2, 8 3 9, 1 8 6千円
総費用	2, 8 0 9, 2 8 5千円
(本部費配賦額	6 4, 0 4 5千円)
当期純利益	2 9, 9 0 2千円

平成 25 年度の新病棟（A棟）使用開始以降、経常収支において利益を計上できるようになり、今期は1 2 7, 8 2 2千円となった。

定年等での常勤医師の変動の影響がまだ続いており、外来・入院機能充実のために常勤・非常勤医師の補強をし増員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士も回復期リハビリテーション充実のために増員、看護師等は引き続き増員を図り、その他技師等も定年による補強対策を事前に準備し増員とした。

東京都福祉保健局より、平成 26 年度の減免実績に対し、平成 28 年 5 月に無料低額診療事業について適合施設としての証明書の発行を受けた。

3. 介護老人保健施設グリーン・ボイス 平成27年度事業報告

平成27年度の業務実績は、入所は平成26年度レベル保持、通所は8%減となったが、事業収入は6.9億円（前年度6.85億円）と前年度レベルを保つことができた。人件費計上の仕方を見直したため、事業費用が8%ほど下がり、平成23年度ぶりの黒字となった。築後20年となるので建物設備の修繕が必要となるため、設備投資用の資金的準備をしておきたい。

東京都福祉保健局より、平成26年度の減免実績に対し、平成28年5月に無料低額利用事業について適合施設としての証明書の発行を受けた。

4. 在宅サービス部門 平成27年度事業報告

(1) 東村山市南部地域包括支援センター

東村山市からの委託事業であるため、委託費を収入のベースとし安定している事業である。平成27年度は看護師を2名体制にしたため人件費が微増したが、決算は黒字である。

(2) 緑風荘居宅介護支援事業所

利用者数が激減したため、収入が減少した。また、グリーン・ボイスの送迎業務として計上していた人件費を見直し、事業所内で処理したため費用が例年より上がり赤字となった。異動により人員を一名削減したため、平成28年度は収支バランスが整う見込みである。

(3) 緑風荘訪問介護ステーション

利用者減少と職員の稼働率の悪さから、赤字幅が増大した。平成28年度は、職員を男性1名・女性2名の体制から、女性2名の体制に変更するベースができてきた。下半期から女性2名体制で効率良い運営を心がける。

結 論

厚生労働省は、ここ数年の医療構造改革と診療報酬・介護報酬改定において少子・超高齢化社会における医療・介護の新しい提供体制と財政的な運営方法を整備しようとしている。日本社会全体における社会保障という視点から医療・介護・福祉に対する全般的な検討が加えられ、今後も多くの議論を経ていくものと考えられる。当面 2025 年問題に向けての「地域包括ケアシステム」の構築が大きな柱組みとなる。

緑風荘病院は、平成 22 年度以降、病棟閉鎖、仮設工事、南病棟解体、入院機能の再編と大きな困難を克服しながら病院機能の再構築をしてきた。これらの計画遂行は病院の入院・外来における患者数動向に大きく影響し、結果として収支における負荷は多大なものであった。平成 24 年度期中での介護療養の医療療養への転換、回復期リハビリ病棟の改修工事の為の一時休止によって入院患者数を大きく減じたが、建替え計画によって当初より実現が見込まれた通りに、入院機能再編による各病棟の一日平均単価の増加と、稼働状況の向上により増収することができた。更に、透析事業の増強、一般病棟の看護体制 13 対 1 取得、回復期リハビリテーション病棟の上位施設基準の取得により、患者 1 日当たりの平均診療単価を更に上げていきたい。また、老健グリーン・ボイスは、北多摩地域に老健施設や特別養護老人ホーム等が続々と開設したため入所者数が低調になったが、緑風荘病院との連携はもとより、地域の他の医療機関、介護施設とも連携を密にしながら稼働状況の改善を図りたい。

吾々地方的・中間的病院、老健施設も、この度の医療構造改革、特に高齢者に対する医療・介護についての政策の方向性を考えると厳しい経営環境は今後も続くであろう。しかし、病院、老健、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問介護ステーションが連携し、地域住民特に高齢者の方々にいろいろな面で複合的に関わり、国が目指す「地域包括ケア」の一端を担えれば、福祉・医療・介護を担う社会福祉法人として社会的使命を果たせるものと考えられる。

現時点においては緑風会全体の組織を固め、各部門間の協力・連携関係を強化し、制度改革の動向について情報を収集し、十分に研究し、積極的に地域社会に貢献していくものとする。